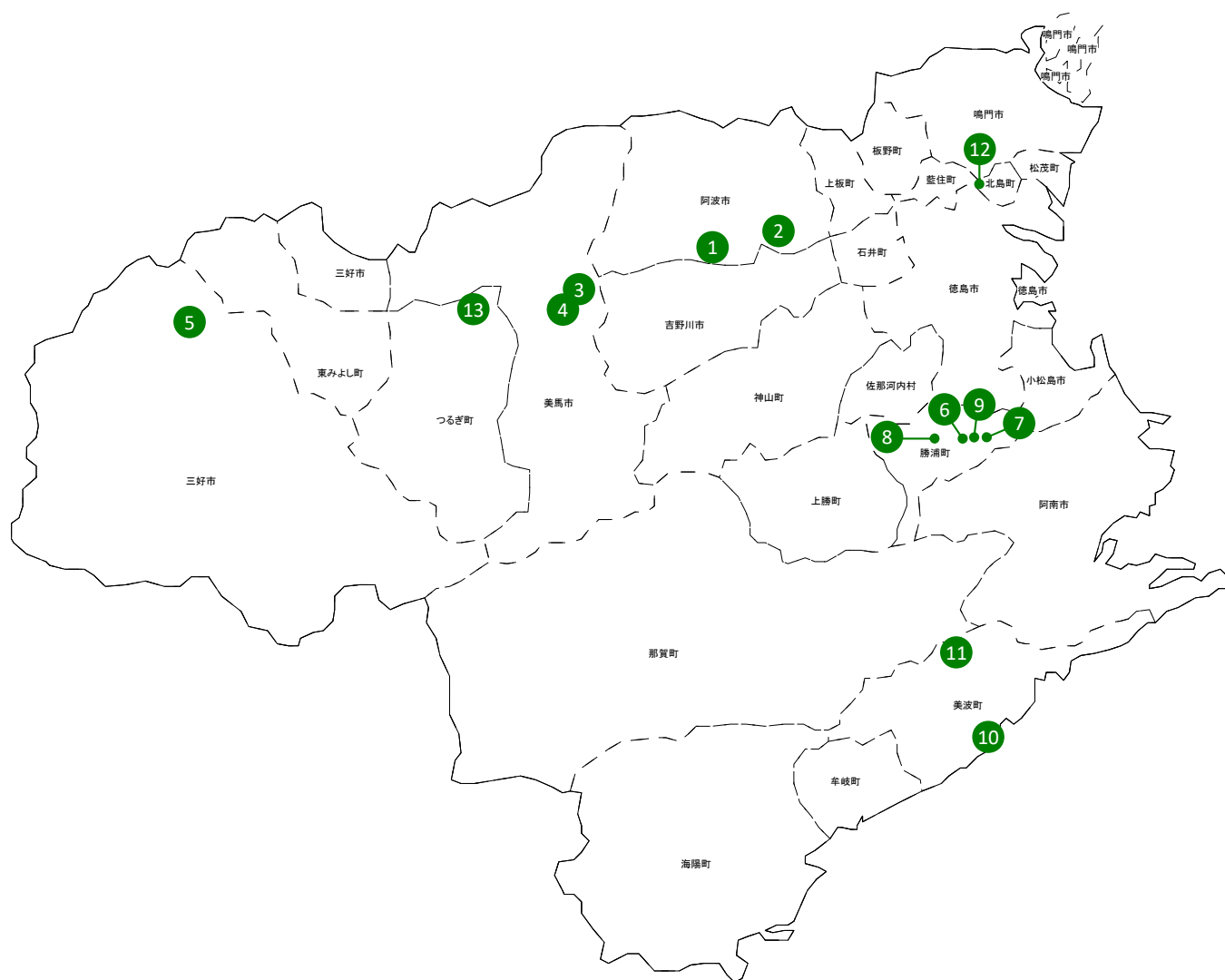


徳島県

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第11回選定) 応募地区(者) 一覧 (徳島県)

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取組		
①		個人	阿波市	寺井 稔	農業	食育・教育	多様な分野との連携
②		団体	阿波市	特定非営利活動法人山の薬剤師たち	農業	雇用	農福連携
③		団体	美馬市	株式会社 Tea.M	輸出	環境保全(農林水産業・食品産業)	教育機関との連携
④		団体	美馬市	仕出原自治会	輸出	伝統の継承	農村環境・景観保全
⑤		団体	三好市	一般社団法人そらの郷	農泊	農村文化体験	関係人口の創出
⑥		団体	勝浦町	生名ロマンの会	農村環境・景観保全	高齢者の活躍	関係人口の創出
⑦		団体	勝浦町	NPO法人 阿波勝浦井戸端塾	伝統の継承	高齢者の活躍	関係人口の創出
⑧	地方 奨励賞	団体	勝浦町	特定非営利活動法人 K-Friends	6次産業化	地産地消	食育・教育
⑨		団体	勝浦町	道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト	農業	荒廃農地対策	農福連携
⑩	地方 奨励賞	団体	美波町	株式会社四国の右下木の会社	スマート農林水産業	伝統の継承	環境保全(農林水産業・食品産業)
⑪		団体	美波町	特定非営利活動法人赤松煙火保存会	伝統の継承	-	-
⑫		団体	北島町	は一とふる川内株式会社	農業	6次産業化	農福連携
⑬		団体	つるぎ町	家賀再生プロジェクト	農泊	伝統の継承	農村環境・景観保全

応募地区（者）所在市町村図（徳島県）



てらい みのる
寺井 稔

農業が、何倍も楽しくなった理由（ワケ）。

概 要

- 「生産から販売まで、自分でやってみたい」と、28歳の時に就農。農業後継者グループ「GOTTSO阿波」にも参加。
- 「野菜の力でまちおこし」を目標に野菜の出張販売や広報を幅広く行い、自らが「まちのPR隊」として活動。
- 県農業支援センターと連携し、県内の幼稚園や小学校で「GOTTSO 美〜ナス」を使った食育の出前授業を実施。



徳島阿波おどり空港での試食販売



コンビニで「美〜ナスのパスタ」発売



県農業機関と食育の出前授業

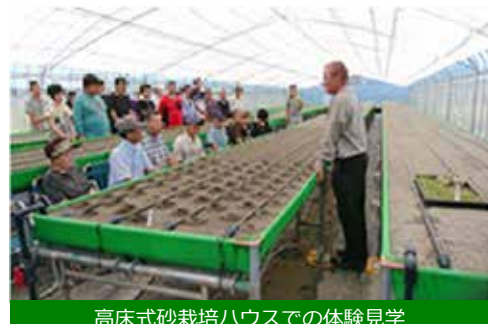
〒771-1701 阿波市阿波町下喜来南174-7
090-3787-2756 gottsoawa@gmail.com

関連情報はこちら ▶

とくていひえいりかつどうほうじん やま やくざいし
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち
軽負担農業で質の高い野菜を栽培する

概 要

- 軽負担でマニュアル管理しやすい高床式砂栽培ハウスを導入し、葉物野菜を栽培。障がい者たちだけで管理する自立型農園をコンセプトに、障がい者の担い手を育成。
- 農業教育の場で「農福連携」や「障害福祉」の学習の一環として、農業を学ぶ学生と障がい者が共同作業する機会を提供。
- 高齢者施設の入所者向け収穫体験など、レクリエーションや園芸療法として農業に触れ、明るく元気に暮らすきっかけを創出。



高床式砂栽培ハウスでの体験見学



チンゲンサイ



ベビーリーフ

〒771-1401 阿波市吉野町柿原字原194-1
088-676-3380 tanagokorokoyadairanaruto@gmail.com

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ て い ー む

株式会社 Tea.M

手のひらの茶葉から豊かな農文化と伝統に

概 要

- 世界農業遺産に認定された伝統農法「にし阿波の傾斜地農耕システム」で、瀧名地区の茶畑の再生に取り組む。
- 希少な茶葉「瀧名茶」の商品開発・販売。また、食べる茶葉、フレーバー、お茶墨、お茶染め等のアイデアにより茶葉の可能性を最大限に引き出している。
- 学校教育現場での「茶育」の出前授業や、海外での緑茶セミナーにより飲むだけではなくお茶の魅力を発信。

成 果

- 茶畑の管理活動は15人（令和4年度）から45人（令和5年度）に増加。地域住民や高校生と連携して、高齢化の進む瀧名地区の茶畑再生を実現し、茶葉を活用した集落のブランディングと地域おこしに貢献。
- 「茶育」は子供たちがお茶をより身近に感じる事ができ、その価値を高めている。自分が住んでいる土地やその成り立ちを学び、「生きること」をお茶を通じて伝えている。
- シンガポールで開催した緑茶セミナーには約35名が参加。



傾斜地にある瀧名地区の再生茶畑



瀧名茶



教育現場での茶育 ～茶習字体験～

〒777-0005 美馬市穴吹町穴吹字藤原11-1
090-9453-1442 nitoha28@gmail.com

関連情報はこちら▶

しではらじちかい
仕出原自治会

清流穴吹川と自然を楽しむ人気のスポット

概 要

- はっさくの産地「仕出原集落」は、少子高齢化、後継者不足、鳥獣被害、耕作放棄地の拡大等多くの課題を抱え、集落の存続に不安を覚えていた。
- そこで国等の各種支援制度を活用し、景観維持のため、道路の草刈り等の地域の環境整備に取り組んだ。
- はっさくをEUへ輸出やブルーベリー観光農園及び「リバーサイドしでの家」の運営を実施している。

成 果

- 仕出原地区は、はっさく生産の伝統を守り、品種変更をせず、気候・風土に適した栽培を行っている。
- また、同地区のはっさくは、とくしま特選ブランドに認定されており、更にEUへの輸出で知名度アップが図られている。
- 「リバーサイドしでの家」での夏場の川遊びやブルーベリー観光農園が人気スポットとなっている。また、これらの施設の運営を通じ、集落の活性化や集落と外部の人々との交流が深まり、協調性が醸成された。



「リバーサイドしでの家」と清流穴吹川



はっさくシャーベット等の販売



ブルーベリー狩りの様子

〒777-0006 美馬市穴吹町口山字仕出原80
0883-52-0468

いっばんしゃだんほうじん さんと
一般社団法人そらの郷
 千年のかくれんぼ～分け入るごとに時は遡り

概要

- サステナブルな暮らしの中に来訪者を招き入れて地域の農業者との交流により感動を共有するといったテーマ性のある観光に価値を見だし、新しい観光資源としてブランディングを図る。
- 体験型教育旅行では、受入農家の下で農作業体験や収穫した農作物の共同調理などをメニューとした農泊体験を商品化。都市部の中学・高校を対象に受入れを行うための環境整備を実施。
- インバウンド誘致は、農山村での畑の散策や農家の庭先での餅つきなどを交流コンテンツに組み込んだ商品開発に取り組む。



伝統的な農作業ソチアゲ体験



野菜の収穫体験（教育旅行）



地元農家との交流（餅つき体験）

〒778-0005 三好市池田町シマ995番地 1
 0883-87-8988 sora-05@nishi-awa.jp

関連情報はこちら ▶



いくな か
生名ロマンの会
 ボランティアでつくろう「生名ロマン街道」

概要

- 生名区老人会等の人々が子々孫々のためにと植栽した桜（生名谷川兩岸総延長約2km）が、40年以上経過し、大きく美しく成長。平成15年に兩岸の管理道路を公園化。
- 桜の美しさと自然の恵みをアピールし、環境保全、地域コミュニケーション、安らぎの名所として地域の活性化活動を開始。
- 平成16年から「勝浦さくら祭り」を開催。平成23年には、舟下り、トロッコ列車等のイベントを開始し、取組規模を拡大。

成果

- 「勝浦さくら祭り」の来場者数は、国内外合わせて4万人を超え、町内の文化経済に大きな影響を与える。
- 大学生など町内外から1日100名を超えるボランティアの参加により、地域コミュニケーションが活性化。
- 生名ロマン街道での清掃と草刈り、生名谷川の清掃活動（年3回）を実施するとともに、桜のせん定（隔年）等により、環境・景観保全に寄与。



生名ロマン街道の桜並木



勝浦さくら祭り（舟下り）



ボランティアによる環境保全活動（年3回）

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名
 090-8970-6728 kouryu@town.katsuura.i-tokushima.jp

関連情報はこちら ▶



えぬぴーおーほうじん

あわかつうらいどばたじゅく

NPO法人 阿波勝浦井戸端塾

グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり

概要

- 平成3年、新とくしま県民運動推進事業の認定を受け、同年8月「勝浦町・地域づくり井戸端塾大会」を開催し、活動を開始。
- 平成4年から日本一を誇る「ビッグひな祭り」を開催。家庭で飾られなくなった雛人形を全国から集め、ピラミッド型ひな壇100段などに約3万体の雛人形を展示。
- 平成6年には、四国で初めて恐竜化石が発見され、「恐竜の里づくり」の取組も開始。



ビッグひな祭り会場

成果

- ビッグひな祭りのロールモデルを形成し、各地に雛人形を提供し続けることで、全国に広がるきっかけとなった。文化交流にもつながり、令和3年に開催された東京五輪で展示。
- 町内で恐竜の化石が発掘されたことを契機に、恐竜の里を整備。モニュメントの設置や化石発掘体験を開催。徳島県が行う発掘調査の支援。イベント開催等でインバウンド誘致等、地域活性化に貢献。



化石発掘体験

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35-1
0885-42-4334 hinanosato.k@gmail.com

関連情報はこちら▶

地方
奨励賞

とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 K-Friends

～山あいの農産物・知恵・仲間を集めて～

概要

- スポーツ振興で地域活性化を目指し、スポーツと地元特産物の収穫体験をコラボさせたスポーツツーリズム事業等を実施。
- 地域の子供達に旬の野菜の魅力を知らせようと、食育と地産地消の食育教室を開催。
- 令和3年から農産物商品加工ができる施設を受託したことをきっかけに、6次産業化へ取り組み、地元の農産物を使った商品を開発し販売。

成果

- スポーツ振興イベントでの交流人口は、138人（令和2年度）から950人（令和5年度）へ増加。地産地消・食育教室等の参加者は、42人（令和元年度）から70人（令和5年度）へ増加。
- 6次産業商品化の取組は、「まんまいも」「まぜご飯の素」に加えて、規格外の地元の特産品である熟成みかんを使用したジャム等を商品化。商品の売上げは、取組開始初年度（令和3年度）の35万円から350万円（令和5年度）へ増加。



収穫体験&ウォーキングイベント



熟成みかんジャム



食育教室

〒771-4307 勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1番地1
0885-42-3671 kfriendsskss@gmail.com

関連情報はこちら▶



道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト

住民が輝く地域再生の拠点づくり

概要

- 行政及び地域住民から交流人口増加対策や耕作放棄地の景観問題の解消の依頼があり、道の駅が主体となりプロジェクトを企画。
- 消費拡大と地域資源PRに資するイベントの開催（808（ヤオハチ）農園、マルシェ、防災フェス等）。こども食堂「ヤオハチ食堂」の整備。
- 協働体制の構築及び食育に資する「給食メニュー」の開発。



保育園児のかんしょ収穫体験



ひまわり畑



ヤオハチカレー試食会

成果

- 耕作放棄地を再生し農地面積を13a（令和4年度）から、30a（令和5年度）へと拡大。地域住民や近隣の学生等と協働し、かんしょ、ひまわり等を栽培。協働人数は、50人（令和3年度）から250人（令和5年度）へ増加。
- 栽培した野菜を使ったレトルト食品「ヤオハチカレー」を町内の高校と共同開発。商品化に向け、こども食堂で試食会を開催。
- 各種イベントを開催し、関係人口を獲得するなど地域経済の活性化に貢献。

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬4-1
0885-44-0112 hinanosato.k@gmail.com

関連情報はこちら▶



地方
奨励賞

株式会社四国の右下木の会社

樵木林業と備長炭で里山を宝の山に！

概要

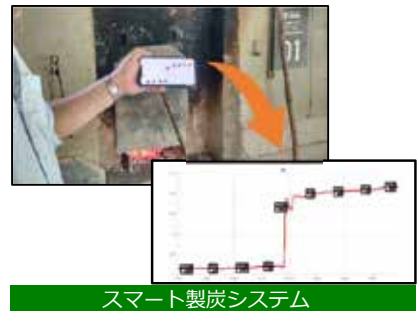
- 江戸期から続く薪炭林に最適化された徳島県南部地域伝統の林業技法である「樵木（こりき）林業」を再興し、国内外で高価取引される備長炭の生産販売に取り組む。
- 樵木林業の再興を、雇用の創出、伝統・文化の継承、老齢林の若返りやナラ枯れの抑制など里山の回復・維持につなげるとともに、地域自治体と連携し、官民連携で地域産業化を推進する。



樵木林業を復興し新炭林を伐採



「樵木備長炭」の製炭



スマート製炭システム

成果

- 製炭師の経験や感覚値への依存が高い製炭工程について、IoTによるスマート化を図り、高品質で安定的な生産を実現。品質面だけでなく環境への配慮にも評価をされ、有名飲食店等への導入が進んだ。また、JETROの支援を受け海外輸出に着手している。
- 林業の6次産業化モデルを確立し、里山林の未活用と荒廃に悩む他地域にもこのモデルを広げるべく、複数の自治体とプロジェクトを進めている。

〒779-2305 海部郡美波町奥河内字井才天54-5
0884-70-5831 info@treecompany.jp

関連情報はこちら▶



とくていひえいりかつどうほうじん あかまつえんかほぞんかい
特定非営利活動法人 赤松煙火保存会
 できたん、どしたん、吹筒花火

概要

- 徳島県南部の美波町赤松地区は中山間地域に位置し、約200戸で構成されている。過疎化、高齢化、人口減少が進んでいる。
- 約200年続く伝統の吹筒花火の製造技法の衰退や神社への奉納ができなくなることが危惧され、平成7年、赤松地区有志により「赤松煙火保存会」を設立し、その後、持続可能な組織とするため平成25年「NPO法人赤松煙火保存会」を設立。
- 令和4年、徳島県指定無形民俗文化財に指定。

成果

- 地域住民による手造り吹筒花火の製作は、共同の作業を通して、住民相互のコミュニケーションの促進、地域の活性化につながっている。
- さらに活力ある村づくりとするため、「赤松地区農村RMO推進協議会」に参加。
- 令和5年、令和6年には、「全国花火師競技大会 にし阿波の花火」で伝統の吹筒花火を披露。



吹筒に火薬を詰め込む作業



奉納吹筒花火の模様



「できたんどしたん」の掛け声とともに

〒779-2301 海部郡美波町赤松字総屋敷146-1
 090-3180-9472 yokoyama@ma.pikara.ne.jp

関連情報はこちら▶



かわうちかぶしきがいしゃ
は一とふる川内株式会社
 障がいと共に農業で働いて元気になる

概要

- 大塚製菓株式会社の特例子会社として、障がい者雇用農園を設立し、ハウストマトの生産・販売を行う。
- 地域の障がい者就労支援センターとドライトマトを開発し、農福連携・6次産業化を実現。
- とくしま安²農産物（安²GAP）認証を取得し、安全な職場整備と安心安全なトマトを提供。もにす認定、ノウフクJASを取得し、全国的な農福連携の啓発を推進。

成果

- 障がい特性に応じた支援や指導を行い、障がい者就業人数は、知的障がい者4名（平成27年度）から、知的障がい者5名と精神障がい者3名の8名（令和5年度）まで増加。
- ドライトマトの販売拡大により、6次産業化を更に推進。
- 障がい者雇用に関わるロールモデルとしてセミナーや見学会等を積極的に行い、各職域での障がい者雇用を推進。



農園で働く社員：職業人として成長



G7宮崎農業大臣会合JAS認証商品展示会に出品



ドライトマト

〒771-0283 板野郡北島町高房字居内1-1
 088-678-5276

関連情報はこちら▶





け か さい せい 家賀再生プロジェクト

家賀の藍は日本の桃源郷からの贈り物

概 要

- 世界農業遺産の「にし阿波の傾斜地農耕システム」でカヤ、落葉などを用い「藍」を栽培し、食用としてパウダー化して販売。
- 令和4年にリース法人の農業参入を支援して「SAWAファーム」を、令和6年に個人向けの農業体験地をそれぞれ開設し、いずれも世界農業遺産の農法を実施。
- 家賀再生プロジェクトと地元団体が協働して体験型宿泊施設「家賀の郷 清笹」を活用しながら家賀地区でのツアーや農業体験を受入れ。

成 果

- 家賀地区では戦前まで栽培していた藍の栽培を世界農業遺産の農法により再生させ、食用を始め様々な商品を開発し販売して地域の活性化につなげている。
- 「にし阿波の傾斜地農耕システム」はSDGsの取組に優れ、「CO2」を地中に封じ込める特性があり、「カーボンニュートラル」達成への手段として近年改めて評価されており、多くの企業や団体、学識者、大学生などが訪れ、プロジェクトを立ち上げた平成30年から延べ3,000人以上が家賀地区を訪れた。



カヤ場（採草地）の維持・管理でCO2を固定



リース法人の農業参入を支援



日本各地の大学生等との交流・体験

〒779-4101 美馬郡つるぎ町貞光字大須賀44-8
0883-68-8808 shinca@movie.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶

